

## 巻 頭 言

新津丘陵は、豊かな自然環境により多くの動植物を育むと同時に、里山として人々のくらしと深くかかわり、地域の文化や生活に欠かせない役割を担ってきた。

今日、人々の暮らしと里山のかかわりは大きく変貌したが、その豊かな自然は、現代を生きる私たちにも限りない恩恵をもたらしている。

新潟市は、この貴重な里山における植物、鳥類、昆虫などの実態調査を専門家に依頼し、新津丘陵の保全とより個性的、魅力的な活用を図るための基礎データとしてきた。

また、これらの調査結果は、毎年、調査報告会などを活用して広く市民に情報提供され、里山の保全活動の広がりにもつながっている。

石沢進氏にお願いしている植物分布調査もこうした活動の一環であり、すでに8年目となったが、今年度も新たな準絶滅危惧種の追加がなされた。自然の懐の深さをあらためて感じるものである。

新津植物資料年報は、こうした新津丘陵の調査と併せて新潟県内の調査研究の成果もまとめていただいている。

今年度も、資料提供など、年報発行にあたり多くの方々からご協力いただいた。厚く感謝申し上げるとともに、研究成果をより多くの方々から活用していただき、調査活動が今後も順調に進むことを祈念する。

2008年3月

新潟市秋葉区長

松 井 弘